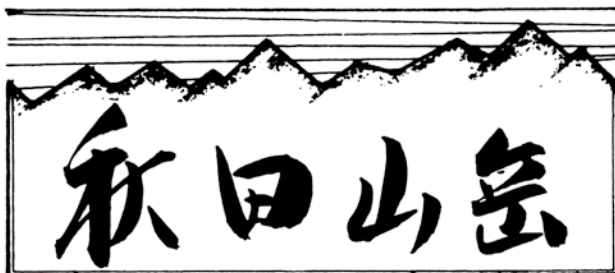


2022



令和4年2月 発行

No. 121

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

太平山歩道整備

公益的事業 太平山歩道整備 安藤金栄

十月三十日(土) 恒例の太平山前岳・中岳の登山道整備刈り払い作業に参加した。これは大変意義のある事業で、終了後はひとつの達成感を感じている。

二手の又登山道入り口駐車地点に八時集合。会員、賛同協力者十一名が集合。ミーティングを行い、集合写真を撮り出発する。

草刈り機を担いでの登り始めはやはり体に堪える。登山道は大勢の人に歩かれているせいか、歩きやすい。所々草木の伸びている箇所を刈りながら進む。

前岳までの中間地点の急坂から本格的に作業を開始。切り取られたクロモジの木がツーンとした香りを発し、元気をもらう。

草刈り機四台がうなる中、多くの登山者が行き交う。感謝の言葉を戴きながらも、笛や掛け声で注意喚起をする。安全には特に気を使うところだ。

女人堂から前岳頂上に至る歩道の刈り払いは、巻道は急斜面で倒木に塞がれているので尾根道のみとした。

公益的事業として平成二十七年十一月に前岳へ設置したベンチ二基のうち、一基は破損している

ので、来年はベンチの補修を行う事等が話題となった。

綺麗に刈り払われた女人堂広場で、昼休みとする。輪になつての昼食。晴天に恵まれた今日、山々は紅葉真っ盛り、青空にブナやカエデの紅葉がまぶしい。辺りの景色がなによりのご馳走だ。

十二時三十分下山開始。刈り残しの草木を払いながらの下山。駐車地点に、堀井顧問が待っていてくれて、「苦労さん」の言葉とミカンの差し入れがあった。

今日の日程を無事に終えて、支部長からねぎらいの言葉があり、解散となった。

市街から近い、この太平山・前岳や中岳を、もつと多くの人に楽しんで欲しい。我々のこの刈り払い作業も微力ではあるが、少しは役に立っていると思っている。

参加者 佐々木民秀 鈴木裕子
鎌田倫夫 佐藤博 安藤金栄
熊谷光子 歩仁内昌樹
三浦昭男 小松芳美
会員外二名



女人堂での記念撮影
(一般登山者も参加)



刈り払い作業

歩道整備事業に参加して 小松 芳美

九月より入会させていただきました、小松でございます。健康のために近くの山に登る程度で目立った山行実績はありませんが、どうかよろしく願います。

十月三十日(土)、会員になり二度目の行事、登山道整備は初の日を迎えました。

太平山・前岳二手ノ又登山口での出発式では、鈴木支部長のあいさつ、鎌田副支部長の諸注意を受けた後、支部長からのバナナをいただき、出発しました。事前にいただいた「秋田山岳」には、バナナをいただくシーンの記載が何度かあり、実際にいただいたことで会員となったことを実感しました。いよいよ山に入り、初の作業をしたのですが、要領を掴めず、先輩の真似をし、草刈り機で刈り払った笹等を脇に寄せるも、熊手の先に葉が絡みつき能率が悪くなり、更には手が痛くなる始末でした。そんな時、安藤さんから「無理せず気楽にやっつて」との優しい声がかかり、気持ちに楽になりました。

歩道整備事業はボランティアのことなのですが、安藤さんの声かけでこのことを再認識し、楽し

く作業することができました。

しかし、私は作業の本質が分からず、「支障木」等の言葉を初めて聞きました。歩道整備を深く考えたことはなかったのです。

作業を通じて先輩より「自然保護と景観保持」の均衡を保つ重要性を教えてもらいました。自然保護のために必要最小限の人為的作業とすることでしようが、個人的には、整備することで見晴らしがよくなり、熊出沒防止にも役立つと思うのですが・・・難しいものです。

今までは、整備された登山道をなんとなく歩いていましたが、この作業を通じて「整備する側の組織力、準備、苦労などが合わさって成り立つ」ことが実感できました。更に、登山者から「ご苦労様です」と声かけされると格別の喜びが芽生えるのは不思議なものです。

貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございます。

今後も身の丈にあった活動ができればと思っておりますので、引き続きのご指導、よろしくお願致します。



熊手を使つての作業



女人堂周辺の紅葉

山岳古道調査情報

○十一月十日秋田さきがけ「北斗星」に日本山岳会が行う百二十カ所の古道調査について、第一次調査対象に「秋田街道」が含まれていることに触れ「山岳会の事業が千古の道にもう一度光を当てる契機になればと願う。」と掲載されている。

○岩手支部からの連絡

岩手支部との共同で調査予定の「秋田街道」について、来年五月中旬に、生保内番所跡から、橋場番所跡までを共同で調査したいとの申し出があった。

○第二次調査対象の矢立峠は、青森支部にお願いしたい旨を連絡した。

○秋田支部の状況

・矢立峠、白木峠については、下山山行を実施。

・秋田街道は文献調査中。来春岩手支部と共同調査予定。

・仙北街道については未調査。

○全百二十古道のリスト発表
(二山)九一九号)があるが、それによって各支部の担当箇所が決定する。

※全国山岳古道調査

日本山岳会百二十周年記念事業調査期間は令和三々令和七年度全国で百二十の古道を調査予定

支部連絡会議

後藤 浩二

令和三年度第三回支部連絡会議は、令和四年一月二十日、十九時からオンライン会議で開催。出席者は各支部約六十名に本部と合わせ七十名の参加で行われた。総務担当柏澄子常務理事の司会により進行。

一 古野会長あいさつ
明日から東京都などでは「まん延防止等重点措置」が始まる、コロナ感染症には十分注意を。

最近、冬山での遭難が発生しているが、事故防止に万全を期してほしい。
古道調査には協力して頂いて感謝している。

支部の活性化が進まない日本山岳会は進歩しない等。
二 「支部の五年後」アンケート
会員数は、百周年時の六千人から現在四五〇〇人に減少し、平均年齢が七十歳を超えている。今後

の状況を各支部はどう捉えているのか。
若手を入れ世代交代を図る活発な支部の一方、現状維持が精一杯で今後を見通すことのできない支部もある。

秋田支部は、現在の会員数の維持、支部山行の回数を増やしたい

等の回答をしている。
三 東海支部による活動発表（高橋玲司支部長）
東海支部は六十周年を迎え、会員数三五〇名の大きな支部である。会の中に様々な委員会（サークル）があり、多様な個の受け皿が十分そろっているのには感心した。

四 新支部構想（坂井副会長）
東京区部の新支部の設定。本部との兼ね合いなど設立後の運営に課題があり、検討中。

五 古道調査WGからの連絡
調査対象古道は第二次まで一〇八古道を決定。調査後の公開を見据え、古道に精通している有識者三名にアドバイスを受け、どうしても外せないものを追加し、二月末までに百二十カ所を決定。

六 国土地理院WGからの連絡
日本山岳会は、従来から国土地理院に対して地形図の情報提供をしてきた（山二〇一九年二月号で紹介）。今後も引きつづき進めて行くが、具体的な方法についてWGで検討し改めてお知らせする。

七 令和四年度全国支部懇談会
神奈川支部から、十月八日〜九日に、「秋の三浦半島・鎌倉」で開催の案内があった。

「三浦アルプスハイキング」や「鎌倉アルプスハイキング」等、詳細は各支部へ五月末案内予定。

八 事務局からの連絡

準会員から正会員への移行の手続きについての説明等があり、会議は二十一時三十分を終了した。

出席者 鈴木裕子 後藤浩二
三浦昭男

会報へ投稿のお願い

会報「秋田山岳」へ投稿をお願いします。

県内の刈り払いの終わった登山道、廃道になった歩道、林道の通行止めや崩壊箇所、整備の終わった林道・歩道等の情報を投稿してください。

会報発行予定は年四回なので、タイムリーな情報は発信できないということもありますが、お知らせ等で会員に周知します。

また、登頂目標を達成した山々の山行記録等や、登るにあたっての参考等、寄稿して頂ければありがたいです。

山中で出会った動植物等の写真の投稿も歓迎です。
是非、投稿をお願いします。



訃報

保坂 隆 司 氏

（静岡県熱海市）
No.四六六三 永年会員
秋田支部名誉顧問

病氣療養中のところ、
令和三年十二月五日逝去
（享年九十才）

進藤 昭 氏

No.四七六〇 永年会員
秋田支部名誉顧問
病氣療養中のところ、
令和四年一月二日逝去
（享年九十五才）

謹んでお悔やみ申し上げます
秋田支部から、弔電と献花をお届け致しました
秋田支部へのご支援に深く感謝し、心からご冥福をお祈りいたします



会務報告

○役員会

・令和三年度第一回役員会を十二月六日(月)午後一時から泉コミユニティセンター会議室で開催された。

昨年と同様に出席者全員マスク着用での会議となった。鈴木支部長からコロナ禍でこれまで役員会を開くことが出来ず、残念であった。コロナが終息し、活発な支部活動が出来ることを願っているとの挨拶があった。

執行状況報告では、今年度もコロナ禍の影響で年度最初の役員会がこの時期になってしまったが、事務局会議を五回開催し、事務や事業等の支部運営を行ってきた。

また、支部山行に替り山岳古道調査を「矢立峠」と「白木峠」を実施した。本会との会議はオンラインで四回開催。

「山の環境整備県民協働事業」については、秋田駒ヶ岳・笹森山周辺整備に参加。中央地区山岳協議会の事業・太平山中岳から剣岳分岐までの歩道整備へ参加。支部公益的の事業として、二手ノ又登山口から前岳の歩道整備や中岳の支障木処理などを行ったことを鎌田事務局長が報告した。

続いて石川会計担当から会計状況報告があった。

山岳古道調査については、秋田街道の調査について岩手支部から来春共同で行いたいとの連絡があり、生保内地区の会員と道路状況の確認をお願いしていると鈴木支部長から説明があった。

続いて役員改選では、鈴木支部長は任期満了による退任、新支部長に佐藤和志副支部長を推薦、また、それぞれの事情で委員辞任希望者もおり、新たな委員を推薦して、新支部長に一任することでの了承を得た。

役員会終了後、事務局会議を行い、本会からのアンケート「五年後の自分たちの支部をどういう形にしたいか」についての回答を協議した。(鎌田倫夫)

出席者 鈴木裕子 佐藤和志
鎌田倫夫 石川祐子 川口廣志
三浦眞六 安藤金栄 後藤浩二
三浦昭男 柴田勸



役員会後の事務局会議

本会ホームページに

登録しましょう

本会のホームページにアクセスして、会員登録すると、会員のページを閲覧することが出来ます。

そこから会員専用の色々な情報を閲覧することも出来、また、山に関する様々な情報が送られてきます。ご利用ください。

また、メールアドレスをお持ちの支部会員で、まだ秋田支部事務局に連絡のない方は、ご一報ください。メールで送られて来る他支部の会報等を転送することが出来ます。支部のメールアドレス akt@jac.or.jp にお知らせください。

お願い

「設立四十周年記念誌」及び、「秋田山岳合本第一巻」を、転居やその他の事情で処分をお考えの方は、支部事務局へ寄贈をお願いいたします。

必要としている方々に差し上げたいと思います。



編集後記

会報も百二十一号の発行となりました。この号から文字を少し大きくしました。如何でしょうか。

昨秋、あちこちの登山道が整備された情報を耳にし、また新しいパンフレットが発行された地域に興味を持ち、尋ね歩いてみました。パンフレットはこれからの情報らしく、まだ未整備の箇所や標柱の定かでない箇所もありました。

また、以前に歩いた歩道は、年月が経過して荒れていて、歩道は削り取られ、樹木が鬱蒼と成長し、眺望が遮られていてとても残念です。歩道整備の難しさを感じます。

コロナウイルス禍も終息に近づいたと思っていたらオミクロン株が発生し、感染力の凄さに驚きです。まだまだウイルスに脅かされるの生活が続きそうです。

自粛生活が続き、支部総会、新年会、晩餐会、全国懇談会、東北地区集會等、本会や他支部との交流が全く途絶えてしまい残念です。又、行事も制限され、掲載する記事も少なく、年四回発行予定の会報も三回の発行となつてしまいました。コロナウイルスの一日も早い終息宣言が待たれます。

(編集者 鈴木裕子)